

A. 事業内容

【団体名】	ふれあい「えのき」		
【事業名】	せせらぎサロン		
【事業分野】		【協働の形態】	
【行政担当課】		【協働のパートナー】	えのき保育園、西部地区社会福祉協議会、 榎前町福祉委員会

【事業概要】

ふれあい「えのき」は、地域でお互いに助け合い、次世代を担う地域の子ども達が健やかに成長できることをコンセプトに「榎前町の榎前住民による、榎前住人のための活動グループ」です。ふれあい「えのき」は、住民が「榎前に住んで良かった」と感じ、安心してこの地で最期を迎えられる地域を目指し、各種の活動を行っています。その活動の一つに「地域ふれあいネットワーク活動」があり、その中に「ふれあいサロン」があります。

現在、「ふれあいサロン」は、ふれあい「えのき」が主催する「手づくりサロン」と「ひまわりサロン」があり、その他に、えのき保育園、榎前町福祉委員会、西部地区社会福祉協議会、ふれあい「えのき」の4者が協働で開催する「せせらぎサロン」があります。なお、「手づくりサロン」は、町内の子ども達を主とした「異世代交流サロン」で、どなたでも参加できます。「ひまわりサロン」は、町内の方どなたでも参加できるサロンで、おしゃべりしながら、小物作りを楽しんでいます。「ひとりでいるよりみんなと一緒に楽しい！」と参加して頂ける楽しい雰囲気のスロンを目指しています。「手作りサロン」と「ひまわりサロン」は、ふれあい「えのき」が主催し、榎前老人クラブと連携し、西部地区社協の協力で開催しています

「せせらぎサロン」は、年間9回（5、6、7、9、10、11、12、1、2月）、第2火曜日の9時30分から主にえのき保育園ゆうぎ室等で、えのき保育園園児と地元高齢者及び住民が交流しています。

【背景・きっかけ】※なぜ協働を行ったか？

ふれあい「えのき」が発足した1998年（平成11年）頃、小中学校の週休二日制が導入されており、ふれあい「えのき」は、土曜日の子ども達の居場所作りを考えていました。ふれあい「えのき」は、発足時から取り組んでいた高齢者の「ふれあいいいききサロン」に、土曜日休みの子ども達を加えて、異世代交流「ふれあい交流サロン」を毎月第1土曜日を基本に開催していました。この当時の「ふれあい交流サロン」は、ふれあい「えのき」が主催し、榎前町福祉委員会・西部地区社協が協力して開催していました。子ども達は“高齢者に元気と楽しさ”を、高齢者は子ども達に“生活の知恵とあたたかい見守り”を目的に楽しい交流の場となっていました。

一方、保育園児は年齢が低く対象となっていませんでした。

しかし、ふれあい「えのき」では、核家族が増えて祖父母との暮らしを知らない保育園児と高齢者の交流の機会も重要であると感じていました。また、えのき保育園では、町内で唯一の公的施設として、生活発表会や運動会などの行事で地域の高齢者と園児の交流の機会を多く作る努力をしていました。

この時期、保健センターでは、高齢者の「閉じこもり」や「介護が必要」とならないための健康づくりを目的に「健康体操教室」開催など取り組み始めていました。

このため、西部地区社会福祉協議会は、「3者（ふれあい「えのき」、えのき保育園、保健センター）

それぞれの動きをひとつの事業として活かそう！」と、榎前町福祉委員会に協働での事業開催を持ちかけました。

そこで、福祉委員会は、榎前老人クラブの協力を得て、開催に向けて取り組みを開始しました。

以上の経緯を経て、榎前町福祉委員会、えのき保育園、西部地区社会福祉協議会、安城市保健センター、ふれあい「えのき」の5者協働事業として、平成14年度よりえのき保育園で交流サロンが始まりました。スタート当初は、サロン開始前に、保健センター職員が高齢者を対象に、血圧測定と健康相談、健康体操を行い、その後園児との交流タイムでした。しかし、市内で健康体操教室が増えるにつれて、保健センターの職員が対応できなくなり、健康体操は別日程で会場を替えて開催することになり、5年前から4者の協働事業となりました。

「せせらぎサロン」の命名は、その頃明治用水土地改良区の事業で、せせらぎ水路と散策路が完成、「せせらぎ街道」と呼ばれ、朝夕住民の散歩コースとなり格好のふれあいの場となったことから、当時の町内会長が名づけ親となり「せせらぎサロン」となりました。「せせらぎ街道」と同様、住民に親しまれるサロンとして定着し、現在に至っています。

【プロセス・役割分担】※どのような協働を行ったか？ 実施するまで実施したプロセス

「せせらぎサロン」は、平成14年度より開催され、4者の役割分担は、以下の通りです。

団体名	役割分担
えのき保育園	企画運営、会場提供と子どもの世話、当番月の出し物提供 世話
榎前町福祉委員会	企画運営、高齢者へのご案内状配り、参加者受付事務、福祉委員会代表（町内会長）がはじめのあいさつ、老人クラブ（グラウンドゴルフ、豚汁作り材料提供）
ふれあい「えのき」	企画運営、高齢者のお世話、高齢者へのご案内状配り、当番月の出し物準備と講師、豚汁作りなど
西部地区社会福祉協議会	4者の連絡調整・助言など

【効果・課題】※協働した結果どうなったか？

「せせらぎサロン」は、年間9回（5、6、7、9、10、11、12、1、2月）第2火曜日の午前中に、主に、えのき保育園ゆうぎ室等で、毎回楽しく交流しています。ただし12月はクリスマス会にあわせて実施されています。この他にも、園児と地元高齢者との交流は、保育園の年間行事の中でプログラムに組み込まれていて、年間通算すると15回以上になっています。

園児たちは、保育園入園と同時に、地元の高齢者と定期的に交流することで、卒園して小学生になると、登下校時に「〇〇ちゃん。おかえり！学校楽しかったかね～」とか、町内のイベントでは、「〇〇のおじいちゃん一緒に組になろう。」など名前呼び合うなど密な関係ができています。榎前町では、保育園児・小学生・中学生と学齢に合わせた地域交流があり、そのはじめての一歩として「せせらぎサロン」は重要な役割を担い、異世代交流の重要な位置づけとなっています。

B. 団体プロフィール

【団体名】	ふれあい「えのき」				
【法人格の有無】	無	【設立時期】	1999 年 6 月 1 日	【会員数】	53 名
【活動地域】	安城市	【ホームページなど】	http://enoki.cms.am/		

【目的】（300 字程度）

ふれあい「えのき」は、「地域住民の住民による住民のための活動」を基本理念とし、常に町内会および町内の各種団体と連携して活動し、「住んでよかった！と言えるまちづくり」を目指しています。ふれあい「えのき」は、地域で互いに助け合い、次世代を担う地域子どもたちが、健やかに成長できることをコンセプトにしている、地域住民のためのボランティアグループです。ふれあい「えのき」は、会員ひとりひとりが、自分ができる時に、自分ができることを、自分の意志で活動に参加することを基本としており、ふれあい「えのき」の行事は、無理のない範囲で、協力をお願いしています。町内情報紙「えのき」の配達や、町内会イベントの活動では非会員の方にも協力をお願いしています。地域住民に喜んでもらうため、会員同士が明るく・元気に・仲良く活動しています。

【主な事業】

ふれあい「えのき」では、「せせらぎサロン」の他にも、以下の活動を年間通して実施しています。

①地域ふれあい交流・ネットワーク活動

- ・手づくりサロン（6 回）の開催
- ・ひまわりサロン（50 回以上）の開催
- ・せせらぎサロン（9 回）への参加
- ・新 1 年生を迎える会での新 1 年生に交通安全ワッペンの贈呈
- ・ひなまつり会・七夕まつり会・クリスマス会の開催
- ・ふれあい「昼食会の」の開催（4 回）
- ・せせらぎまつりへの参加

②広報活動

- ・年 12 回町内情報紙「えのき」の発行
- ・ふれあい「えのき」のホームページへのアップ
- ・安城市民情報サイトへのアップ

③町内会・町内各種団体開催行事への協力活動

- ・町内会開催の盆踊り櫓建て・練習会・本番・櫓片付けの協力
- ・町内会開催の七夕まつりの準備・本番・笹飾りに協力
- ・せせらぎれんげまつり、せせらぎひまわりまつりの参加協力。反省会炊き出し
- ・老人クラブ資源回収作業協力、町内趣味の作品展・出品片付け

④福祉・防災・環境保全・安全安心まちづくりに関する啓発活動

- ・町内防災訓練参加（年 2 回）
- ・災害時要援護者支援対策モデル事業参加
- ・情報紙「えのき」配達時、要援護者支援 N・W 活動

⑤福祉・防災・環境・生活安全な暮らしに関する学習会開催

- ・中学生防災体験講座を企画。運営に協力。講師

- ・平成24年度 よみきかせ・かたりべ養成講座（全4回）開催
 - ・榎前母子教室防災学習会を企画。講師
 - ⑥子育て支援活動（託児などの子育て支援・子育て相談）
 - ・よみきかせサロン・読み聞かせ交流会開催（全5回）
 - ⑦環境保全活動（榎前環境保全会の構成員として）
 - ・榎前環境保全会の広報部門を担当し、町内情報紙「えのき」に環境保全活動の情報掲載
 - ・収穫祭などイベント時の食の部門を担当
 - ・生き物観察田の田植え、稲刈りに協力
 - ・生き物観察会、視察団炊き出し協力
 - ⑧活動資金調達
 - ・年1回 資源回収実施
- 会員ひとりひとりが、自分のできるときに、できることを、自分の意志で活動に参加することを基本としています。
- その他、榎前町内会 町内各種団体行事への参加協力活動を行っています。

C. 協働ココが大事

【協働のポイント】

まずは、自分達の「目指す姿」が明確になっていること。

次に、自分達が、このグループへの関わり方（会員ひとりひとりが、①自分ができるときに、②できることを、③自分の意思で活動に参加することが活動の基本）がしっかりしていること。

また、活動への取り組み姿勢（④無理のない範囲で行ない、町内情報紙「えのき」の配達や町内会イベントの活動では、⑤非会員の方にも協力をお願いする）が明快であること。

そのうえで、自分達の殻に閉じこもらず、「目指す姿」を実現するために、地域の各種団体と連携し、協働し、「自分達だけでは、できないことも実施していこう！」という強い姿勢が協働成功のポイントです。

【団体からの一言】(300字程度)

ふれい「えのき」では、私たちの活動が、他地域に広がり、次世代を担う子ども達の心にもふるさとを愛する心が育つように！そして、みんなが安城で生まれて育ったことに誇りを持てるように！安城に住んでよかったと感じる心が、どんどん増えるように！そう願って活動を続けます。

【あんねっとからの一言】(300字程度)

年々町内会の加入率が低下している世相の中で、ふれい「えのき」が「住民が榎前に住んで良かった！」と感じ、安心してこの地で最期を迎えられる地域を目指す。」という目的に向かって、幅広い活動を協働という視点を活用しながら取り組んでいる事例として取り上げました。

このような取り組みは、「榎前町」だけでなく、多くの地域で取り組まれていることと思いますが、更に多くの地域で実施され、進化させていくことを期待を込めて取り上げました。

以上